

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690700089		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家高雄 (1F)		
所在地	京都府京都市右京区梅ヶ畑ノ地町10番地		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年2月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは敷地内に小規模ながら家庭菜園スペースがあり、利用者様と共に種まき・収穫をしています。また、利用者様一人一人のライフスタイルを大切にケアを提供するように心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690700089&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690700089&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年11月28日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季折々自然があふれ環境の良い高雄の地に立地する当該事業所は、利用者の安寧に向けて管理者や職員は生き生きと支援に取り組めるよう努め、利用者は穏やかに日々を過ごされています。個々の利用者の意向にそって支援し、職員は見極めを大切に利用者の出来ることを見つけるようにしています。食事の準備では、包丁を持って刻んだり味付けをするなど積極的に関わり食事を楽しまれています。また、広い菜園では種まきから収穫まで草ぬきなども交え利用者は職員と共にやり、収穫物は時々食卓を賑わしやりに繋がっています。事業所では職員のスキルアップにも力を入れ、意見が言いやすくなつた出された意見を運営に反映することで、利用者への気付きに繋がると考え積極的な意見交換が行われています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	未経験者のスタッフが多く地域密着型を理解できていないのが現状です。今後はスタッフ教育の中で共有・実践に繋げていきます。	開設時に管理者が思いを持って「活き活き」と理念を定められました。ケアに統一性がなくなった時や日々の支援に行き当たった時には、管理者は個別に話をする機会を持ち、会議で話をしていますが、全職員への周知や理念に基づくケアへの取り組みとしては不十分と考えられています。	理念にそった支援について会議の場で検討したり、日常的に職員間で確認し合ったり、意識できるように掲示するなどの工夫がなされるよう期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物に参加させていただき、地域の方と交流を持たせていただくことで、地域の一員として受け入れて頂けるよう努めています。また、近隣の方との挨拶も大切にしています。	建物のオーナーを介して自治会長や自衛消防団の方々の紹介があり、徐々に地域の関わりが広がっています。地元の商店で購入したり散歩時に挨拶を交わし、夏祭りでは神輿が事業所に立ち寄るなど地域との交流が深まりつつあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホーム主催の催し物に地域の方にも参加していただけるよう企画・実践行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員の方々から意見・助言をいただきサービスの質の向上に努めています。また、災害時の対応の協議や地域の催し物の情報を教えて頂いています。	運営推進会議は、2ヶ月に一度自治会長や地域包括支援センター職員、利用者やその家族などの参加を得て行われています。入居者の行事の様子などを伝えたり、家族から家族会の発足の提案がありその運営へのアドバイスをもらうなど、和やかな中にも具体的な意見が出されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主催の連絡会には極力参加させていただいております。また地域ケア会議にも参加させていただき、今後も定期的に参加させていただき予定です。	入居状況や介護保険に関わる手続きなど区役所に出向く機会があり、区の窓口で話し合う機会となっています。毎月ある区の連絡会では市の職員との情報交換が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の為施錠を行っている箇所があります。日中は可能な限り開錠を行っています。庭にある畑を利用して出来る限り外出の機会をもうけています。	入職時の研修の受講で職員は身体拘束の理解を深めています。職員会議などで虐待項目を具体的な事例で挙げ指導しています。玄関の施錠は行っていませんが出入り口にはテンキーの設置があり、職員の手薄な時などには利用しています。出かけた方には出来る限りついて行くなど対応を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例を挙げてミーティング等で説明をしています。今後も引き続き教育していく予定です。		

グループホームたのしい家高雄（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の研修内容に取り入れるよう検討中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、運営方針、金銭面などについて十分に説明し納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換の場を設け意見・要望をうかがっております。また、家族様との電話であったり訪問時には用件だけでなく、利用者様の最近の様子等をお伝えすることで意見・要望を言いやすい雰囲気作りを努めています。	家族の訪問時には利用者の様子を報告すると共に、必ず意見や要望を聞くようにしています。世間話をしながら、地元の風習となっている10月の餅つきについての意見等を気軽に相談や意見が出されています。出された意見は具体化するように努め、経験を積み重ねることで次に繋がるよう取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議等にて当ホームの課題を共有・改善に取り組んでいます。	毎月の職員会議や月2回行われているフロア会議では、新人職員も積極的に意見を出し合い活発に意見交換が行われています。行事企画などでは担当者を決め、職員からの意見や提案が出され自主性を持って取り組み、行事の後には振り返る機会を持っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事考課があり職員個々の努力や実績を評価し給与に反映しています。また当社では『ありがとう・ほめカード』というカードを使い互いがモチベーションを保ち仕事に取り組める環境を作れるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員は本社での2日間の研修を受け業務に従事しています。また定期的な内部研修や本社で現任管理者を対象に研修が実施されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社でのグループホーム会議・施設会議を実施しています。その中で情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心にコミュニケーションをとり、他の入居者様との関係や環境の変化への不安を軽減できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階で家族様・本人様の希望・要望を必ず伺うようにしています。また訪問時にはゆっくりと話ができる雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様からの相談・見学・アセスメントの段階で、場合によっては他のサービス利用の助言をさせて頂いております。また医療面においては当ホーム掛かりつけの医療機関より助言いただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの経験が少ないスタッフが多いので、より良い関係づくりの途上です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは”信頼関係を築くべし”の中でコミュニケーションに力を入れています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの友人や知人の訪問があり面会を楽しんでいただいています。 入居前からのセレモニーへの参加や冠婚葬祭については家族様に協力いただいています。	教師であった利用者の教え子や友人の来訪があったり、思い出の場所を偶然通りかかった際に経験を聞き周辺を車で廻るなど、利用者の馴染みの関係を大切に支援しています。今後も個別支援に力を入れて行く事を具体的に検討されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフなしでの利用者様同士の関係が築けているのが現状です。今後はスタッフがパイプ役になれるように指導していきます。		

グループホームたのしい家高雄（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も柔軟な対応に努めさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの段階で希望・意向の把握に努めています。現状は”本人本位”を大切にミーティングを行っています。	契約時には家族や利用者にこれまでの生活や希望などを直接聞いています。希望や意向などを基に、日常生活での会話や日々の暮らしの様子を情報として加え記録に残し、職員間で話し合い思いの把握に繋がっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの段階で把握に努めています。現状はコミュニケーション技術の向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録・訪問診療・訪問看護・ユニット会議・日々の申し送り等を通じて心身状態等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見やアイデアの反映が課題です。現状に即した介護計画作成に努めます。	入居後には暫定の介護計画を作成し1ヶ月で見直し、基本的には6ヶ月毎に見直しを行っています。介護計画は計画作成者が中心になり作成されており、状況によって職員会議などで出された意見を反映するようにしています。	作成された介護計画を職員間で検討し、日々の利用者の様子を基にして定期的に職員間で評価することで、介護計画の見直しに繋がっては如何でしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の教育中です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様の状況に応じて外出・畑仕事等取り入れています。		

グループホームたのしい家高雄（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、できるだけ多くの選択肢を提供できるよう努めます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に提携医（内科・精神科）の説明を行っています。月2回往診があり、24時間の電話対応が可能。	かかりつけ医は契約時には従前のかかりつけ医の継続も含めて選択してもらっています。協力医療機関から内科や精神科の医師の往診があります。日々の健康管理をしている看護師を通じた24時間の対応がなされ、安心の体制が取られています。希望によっては歯科医の訪問も受けることが出来ます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の容体変化の時は看護師に訪問していただき、必要に応じて適切な医療機関との連携を取っていただいています。また、当ホーム内での対応への助言も適宜いただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とのカンファレンスには必ず参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項説明を行う際『重度化した場合における対応に係る指針』についても説明させていただき同意をいただいております。	契約時は重度化や看取りの指針を基にその対応について説明し、理解に繋げています。今後に向けて、身体介護への対応等勉強会を職員対象に行い、容態の変化の見極めなど学ぶ機会を作っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状はフローチャートのみであるが実際には電話等での対応をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し消防署立会いのもと消防訓練を行っています。	年2回避難訓練を行う予定です。一回は消防署の立ち会いを得て行われ、近々2回目の訓練が夜間想定企画が予定されています。地域主催の防災訓練には職員が中心になって参加し、地域の関わりを深めて行く意向です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを尊重できるよう心がけています。不適切な対応があればその都度注意しています。	利用者への尊厳を大切にと考え、言葉を選ぶようにしています。否定的な声掛けはしないようにし、まずは利用者の第一声は受け止めることから始めようなど具体的に職員間で話し合っています。トイレへの誘導時なども大きな声をかけない等配慮した支援を行うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で自己決定・自己選択ができるよう対応させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースを大切にできるよう努めています。不適切な対応があればその都度注意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容・外食・セレモニー等身だしなみに気を配る日を設けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態を考えながら、食事の準備・後片付けをスタッフが一緒にできるよう心がけています。	食事作りの際には、利用者は刻んだり、味付けをしたり出来ることに関わっています。業者から食材が届いていますが、畑の収穫物が食卓をにぎわす事もあり楽しみ事になっています。利用者の希望にそって外食に出かけたり、お好み焼やおやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量・摂取時間・利用者様の好み等記録し一人一人にあった提供を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、必要に応じて歯科受診を依頼しています。		

グループホームたのしい家高雄（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の所在確認に注力し、排泄の支援に努めています。	開設間もなく、まず利用者との信頼関係を築くことで支援に繋がっています。動作を見極め利用者の出来ないことの支援を行っています。退院後の利用者でおむつ利用から紙パンツの移行を図ったり、動きを見ながらトイレ誘導を行い排泄の失敗を無くすようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らない自然排便の工夫に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状況にあった入浴を心がけています。	昼前から夕方まで毎日湯を張り希望に合わせて入浴支援を行っています。基本的には週2回以上と考え、拒否傾向にある方には話し合うなどして納得を得て入浴に繋がっています。汗をかいた後や要望によってはシャワー浴や清拭など柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間・起床時間は特に設定せず、一人一人のペースに配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drとの連携の中で利用者様の状況にあった服薬支援を実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・食器洗い・食器拭き等の役割を支援できるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会が持てるよう意識して日々ケアに取り組めるよう努めています。	公園までの散歩や、近所への買い物に出かけています。また広い前庭や畑で収穫物を見るなど外気浴を楽しんでいます。紅葉を順次楽しめるよう数回に分けて出かけたり、また家族の協力を得て遠出の機会も作っています。	

グループホームたのしい家高雄（1F）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出・外食時には利用者様にお金を渡しレジにて精算していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間環境については十分に配慮していますが、利用者様の状況に合わせて都度工夫しています。	広い窓に続きウッドデッキがあり、明るく開放的な作りになっています。食事時の座席の配置や空間は、利用者がゆったり過ごせるように配慮されています。空調や加湿器の設置等で温湿度管理がなされ、利用者の状況や関わりに配慮した座席作りを心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席・ソファ等を利用して工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具・家具等使い慣れたもの・馴染みのあるものを中心に環境整備をいただいています。	入居時には使い慣れたものを持って来てもらえるよう声を掛けています。絨毯が敷かれていたり、籐椅子や箆笥、仏壇など馴染みの物で空間演出がなされています。また入居後の楽しかった思い出の写真など、その人らしい飾り付けがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札等、視覚に訴えるものはわかりやすく設置しています。また、適度な声掛けを心がけることで安全な環境維持に努めています。		